

【展示室3】

“コレクション展” ～物語の世界へ～ 作品リスト

周南市美術博物館

期間:5月12日(火)～7月5日(日)

※展示順 ※各作家の略歴は裏面に紹介しています。

No.	作家名	作品名【よみ方】	点数	制作年	材質	サイズ(縦×横 cm)
1	天野芳彦	無題	1	制作年不詳	油彩・キャンバス	44.0 × 51.8
2	〃	無題	1	1960(昭和35)年頃	油彩・キャンバス	63.5 × 89.4
3	河上大二	室内	1	1934(昭和9)年	水彩・紙	80.4 × 57.0
4	松田正平	海辺	1	1971(昭和46)年	油彩・キャンバス	81.1 x 116.7
5	國領経郎	春隣	1	1982(昭和57)年	油彩・キャンバス	145.5 × 89.5
6	〃	東京の塔	1	1962(昭和37)年	油彩・キャンバス	111.0 × 144.6
7	前田麦二	砂丘を騎るⅡ	1	1930(昭和5)年	油彩・キャンバス	91.0 x 116.0
8	大庭学僊	自画賛	1	1888(明治21)年	紙本墨書	117.1 × 25.4
9	〃	尉姥図【じょうばず】 (双幅)	2	江戸時代末頃	(各) 絹本着色	(右) 105.3 × 35.4
						(左) 105.5 × 35.4
10	〃	高山彦九郎皇居望拝図	1	1897(明治30)年	絹本着色	105.0 × 36.0
11	〃	福祿寿	1	1886(明治19)年	紙本着色	114.5 × 31.5
12	〃	西園雅集図【せいえんがしゅうず】	1	1894(明治27)年	絹本着色	173.5 × 87.3
13	森寛斎	藤花颯図【とうかいたちず】 (双幅の内の右)	2	1848(嘉永元)年	(各) 絹本着色	(各) 102.2 × 41.0
		柿小禽図【かきしょうきんず】 (双幅の内の左)				
14	〃	義家勿来関桜花吟詠之図 【よしいえなこそせきおうかぎんえいのず】 (双幅の内の右)	2	制作年不詳	(各) 絹本着色	(右) 110.5 × 50.5
		義光足柄山秘曲吹笙之図 【よしみつあしがらやまひきよくすいしょうのず】 (双幅の内の左)				(左) 111.0 × 45.2
15	〃	備後三郎高德之図【びんごさぶろうたかのりのず】	1	制作年不詳	絹本着色	108.0 × 35.0
16	小田海僊	漁樵山水図【ぎょしょうさんすいず】	1	1853(嘉永6)年	絹本着色	144.5 × 70.7
17	江村正光	コンヴィーヴ	1	1980(昭和55)年	油彩・キャンバス	128.5 × 161.0
18	宮崎進	芸人の家族(猛獣使いの家族)	1	1960(昭和35)年	油彩・キャンバス	116.7 x 90.9
19	〃	祭りの夜	1	1965(昭和40)年	油彩・キャンバス	112.1 × 162.0
20	〃	芸人の家族	1	1974(昭和49)年	油彩・キャンバス	53.0 x 72.7
21	〃	テント小屋の女	1	1968(昭和43)年	油彩・キャンバス	72.7 × 90.9

計

24 点

作家略歴

- 小田海僊
(1785-1862) 江戸時代後期の画家。周防富海の回船業河内屋に生まれ、下関の紺屋小田家の養子となった。22歳の時、京都に上り四條派の松村呉春の門に入り、頼山陽に教えを受けて南画に転じた。1824(文政7)年、萩藩に絵師として召し出され、1826(文政9)年より再び京で活動した。中国元・明時代の古画を研究し、独自の画風を確立。人物画を得意とする。
- 森寛斎
(1814-1894) 幕末明治期の日本画家。長州(萩)藩士石田伝内道政の三男として生まれる。京都で森徹山に師事。徹山の養子となる。幕末には国事にも奔走し、勤王志士とも交流があった。1880(明治13)年京都府画学校出仕。1882(明治15)年第一回内国絵画共進会銀賞受賞。1890(明治23)年第三回日本美術協会展「後赤壁図」銀牌。同年帝室技芸員。明治期京都画壇の重鎮。
- 大庭学僊
(1820-1899) 日本画家。徳山の刀工三好與次兵衛の次男として生まれる。11歳で徳山藩の御用絵師朝倉南陵に師事し、南江と号す。のち京都に出て、小田海僊に師事し学僊と改名。独立し、萩で町絵師として活躍。維新後、東京に移り、南北両派を合わせ独自の画風をつくり、山水・花鳥画を得意とした。第1回内国絵画共進会審査員。明治宮殿杉戸絵の制作にも参加。晩年長府、下関へと移り住み、80歳で死去。
- 前田 麦二
(1891-1974) 1891(明治24)年下松生まれ。のち徳山に転居。1926(大正15)年河上大二、久保白船らと徳山洋画協会を結成した。1929(昭和4)年に岸田劉生が徳山へ来た折には共に写生に出かけるなど交流をもった。椿貞雄に勧められ1931(昭和6)年に「小樽の風景」を国画会に出品し入選した。戦後は1946(昭和21)年に結成された防長美術家連盟に参加。各地の美術展の審査員をつとめるなど地域の美術振興に力を注いだ。1959(昭和34)年徳山市文化功労者。1971(昭和46)年昔の生活や風俗を記録した「徳山の思い出」を制作し1973(昭和48)年に画集『徳山の思い出』として出版した。1974(同49)年死去、83歳。
- 河上大二
(1893-1949) 東京生まれ。神戸須磨で幼少期を過ごす。1918(大正7)年東京美術学校(現・東京藝術大学)西洋画科卒業。1921(大正10)年療養のため徳山に転居。1926(大正15)年前田麦二、久保白船らと徳山洋画協会を結成。1927(昭和2)年帝展に「暮れ行く漁村」が初入選、以後毎年帝展に出品。1946(昭和21)年に結成された防長美術家連盟に参加。1947(昭和22)年日展委員。1949(昭和24)年死去、56歳。
- 天野芳彦
(1912-1980) 洋画家。1936(昭和11)年東京美術学校在学中、文部省美術展覧会初入選。1937(昭和12)年東京美術学校油絵科卒業。1946(昭和21)年防長美術家連盟結成により同人となる。1956(昭和31)年から4年連続で国画会展入選。その後、無所属となる。1951(昭和26)年～1970(昭和45)年の間 柳井、下松、徳山高校の美術教諭として勤務。地域の美術振興に尽力する。1972(昭和47)年徳山市文化協会より文化功労賞を受ける。
- 松田正平
(1913-2004) 島根県鹿足郡青原村(現・津和野町)生まれ。1935(昭和10)年帝展第二部会に「婦人像」が入選。1937(昭和12)年東京美術学校(現・東京藝術大学)卒業、パリに留学。1939(昭和14)年第二次世界大戦勃発により帰国。1945(昭和20)年宇部市に帰郷、東見初炭鉱で働く。翌年光市へ転居、防長美術家連盟に参加。1951(昭和26)年国画会会員。その後東京、千葉に転居。1984(昭和59)年第16回日本芸術大賞受賞。1995(平成7)年宇部に帰る。2002(平成14)年文化庁長官表彰を受ける。
- 國領経郎
(1919-1999) 神奈川県横浜市生まれ。東京美術学校図画師範科卒業。1955(昭和30)年光風会賞受賞。1978(昭和53)年に光風会退会。以後日展と日洋展を中心に作品を発表。1980(昭和58)年日展会員賞、1983(昭和55)年第2回宮本三郎記念賞、1986(昭和61)年日展内閣総理大臣賞受賞。1991(平成3)年日本芸術院賞受賞、日本芸術院会員となる。1994(平成7)年勲三等瑞宝章受章。
- 宮崎進
(1922-2018) 洋画家。徳山町(現・周南市)御弓町生まれ。1942(昭和17)年日本美術学校を繰り上げ油絵科卒業、同年入隊、戦後捕虜となりシベリアに抑留される。復員後、上京。1967(昭和42)年第10回安井曾太郎記念賞受賞。1972(昭和47)～74(昭和49)年渡仏、帰国後はアトリエを鎌倉に移す。1995(平成7)年小山敬三賞、1998(平成10)年第48回芸術選奨文部大臣賞、2007(平成19)年旭日小綬章受章。2009(平成21)年から周南市美術博物館名誉館長をつとめた。
- 江村正光
(1934-) 山口県徳山市生まれ。東京藝術大学油画科専攻科修了。1965(昭和40)年国画会展でブルーブ賞。翌年、新人賞を受賞。1970(昭和45)年会友に推挙。1973(昭和48)年会員に推挙される。1975(昭和50年)から1976(昭和51年)にかけてのフランス遊学後。キュビズム風の平面構成を始める。1987(昭和62)年から宇宙幻想のコスモ・シリーズに移る。